

ボランティアを募集



苦小牧市社会福祉協議会は、1人暮らしの高齢者が入院や施設に短期入所する際、飼っている犬や猫を市民ボランティアに預けることができるよう「犬猫一時預かり事業」に乗り出した。ペットの世話のため入院を拒否して健康状態が悪化する人や、飼い主の急な入院で取り残されたペットが死亡してしまうケースが市内でも後を絶たないためだ。道内の社会福祉協議会としては珍しい取り組みで、現在、担い手を募集している。

同事業は、自宅でペットを預かり、食事やトイレ、散歩など基本的な世話をする「預かりボランティア」と、入院などで一時的に支援が必要とする高齢者をつなぐ「預かりボランティア」は動物を飼つた

つたサービスも利用できない人を想定している。

現行制度では打つ手がない間。

預かる期間は最長で3ヶ月間。

これらの問題に、市社協は「市民の力」を借りた預かり事業

を考案。7月下旬から、預かりボランティアの募集を始めた。

第一係は「他に例がない取り組みなので、まずは協力して

くれる人を募った上で慎重に進めたい」と説明。新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、担い手確保に向けた事業説明会の開催も検討する。

のかれざー」にも高齢者が

市社協

犬猫一時預かり事業

市民の力で高齢者支援

急な入院や短期入所に対応

する。市社協によると、1人で暮らす高齢者が増加するにつれて、ペットを取り巻く問題も目立ってきたという。最近では、ペットがいることを理由に入院や介護サービスの利用をためらい、病状が悪化して結局は家で生活できなくなる事例が多発。時には命に関わるようなケースもあるといふ。さらに、飼い主の急な入院で、自宅に置き去りになつたペットが餓死するという痛い経験がある20歳以上の人。支援対象者は、誰の手助けも見込めず、経済的事情でペットホテルやペットシッターといふようなケースもあるといふ。丁寧な事業運営が望まれ、「市民の力で問題に取り組むのはいいことだと思う」と評価する。一方で、「動物を預かるには、健康維持に加え脱走や事故の防止などを考慮した点に気を付けなければならない。ボランティアも支援を受ける側も嫌な思いをしないよう、丁寧な事業運営が望ましい」と指摘している。

市社協地域福祉課地域福祉

週に1回程度、市社協担当者がペットの様子や状況を確認

動に取り組む市民団体「ねこ

問い合わせは市社協電話0144(32)7111。



犬・猫一時預かり事業

預かりボランティア募集！

ペットは家族であり、可愛い子ども。
家族を、子どもを不幸にしない、させないために。

ボランティア内容

ペットの食事やトイレ、散歩などの基本的な世話
場合により、動物病院へ連れていき、そのペットに応じた治療、検査の実施を行っていただくこともあります。

飼い主負担となるもの

食費、通院費、ペットシートなど、預かり時飼育に必要な費用は飼い主負担となります。

預かり事業について

飼い主(高齢者)の入院によって、ひとりぼっちになってしまう犬・猫を一時的(最大3か月)に有志・ボランティアさんに預かっていたり事業になります。

ペットの事が心配にならないように、飼い主に治療や療養をしていただき、ペットと共に住み慣れた地域での生活を再開できるようにします。

応募条件

満20歳以上の男女
犬または猫を飼育したことのある方。
動物に愛情と責任を持っている方。

留意事項

利用者登録が必要です
当会職員が事前面接を行います。

(連絡先) 苫小牧市社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉第1係
(電話) 0144-32-7111 (Fax) 0144-34-8141
(Mail) sc@tomakomai-shakyo.or.jp